

2020年9月8日
 男女共同参画室

学内保育所設置に関する利用意向調査結果

調査期間:2020年8月21日(金)~31日(月)

調査対象者数:678(2020年7月1日現在の現員)

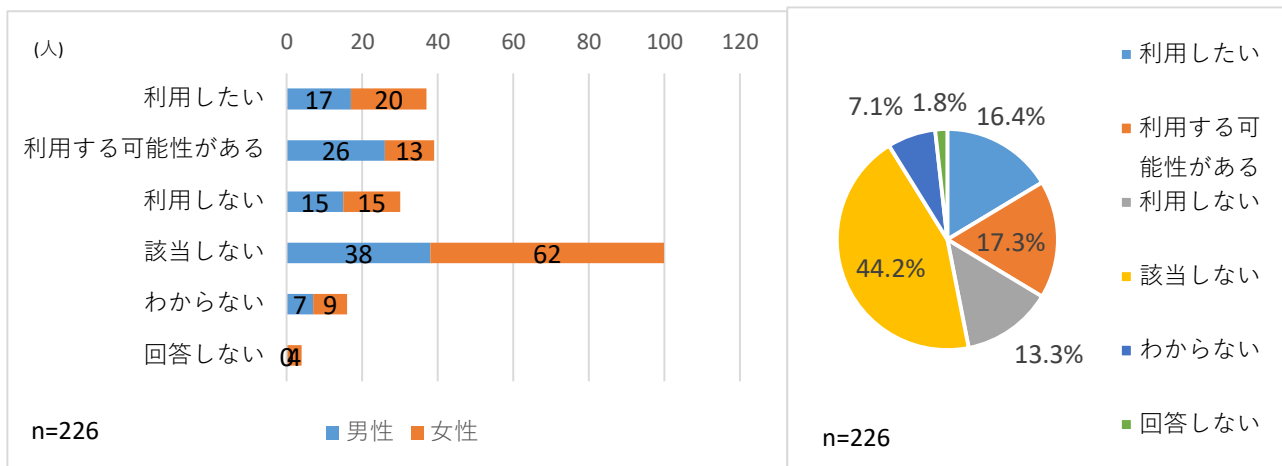
調査方法:全教職員対象のメールリストにアンケートフォームを配信

回収数:226(有効回収率 33.3%) ※H28調査の有効回収率 38.7%

調査結果の概要

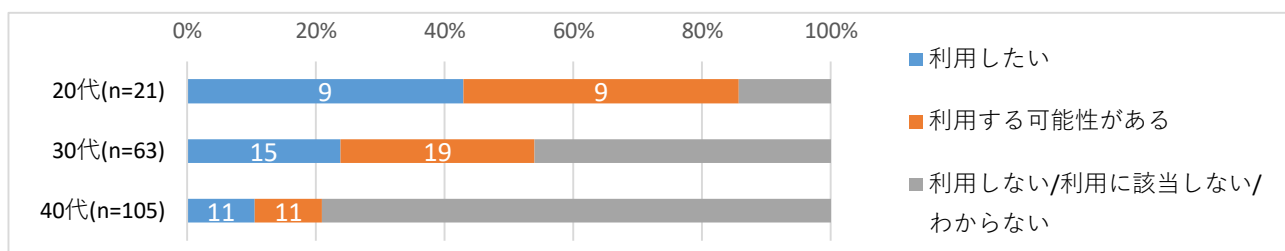
奈良先端大の全教職員 678 名(男性 372、女性 306)を対象として、2020年8月21日~31日に「企業主導型保育事業を利用した学内保育所設置に関する利用意向調査」を実施し、226名(男性 99、女性 127)から回答を得た。回収率は 33.3%であった。

学内保育所が開所されたら利用したいと回答したのは、回答者のうち 16.4%(37名)、利用する可能性があると回答したのは、回答者のうち 17.3%(39名)であった。よって、学内保育所が開所されたら利用したい/利用する可能性があると回答したのは全体の 33.6%(76名)となった。



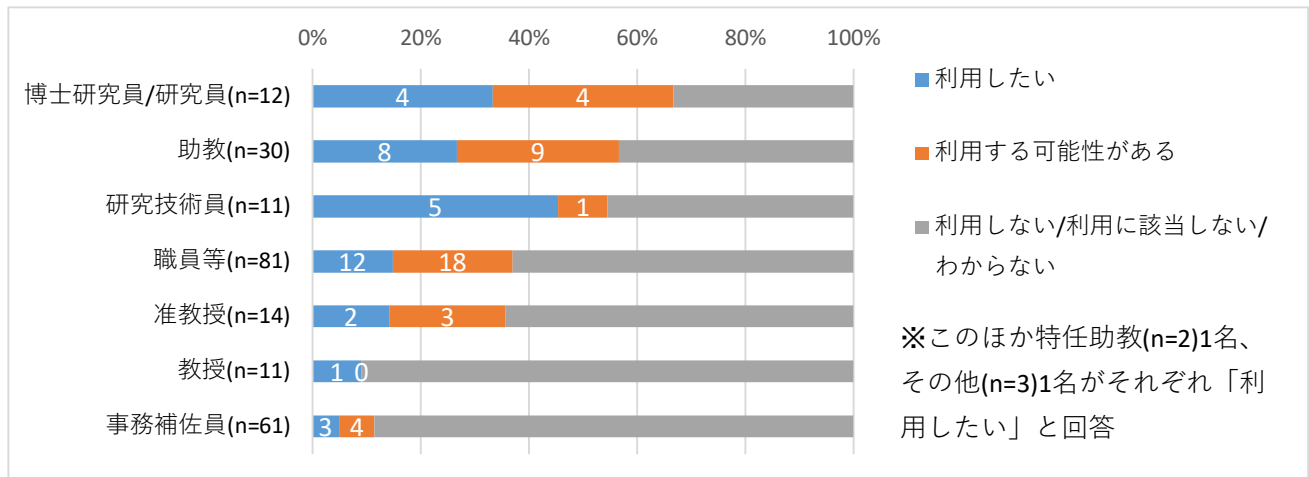
集計結果の主な傾向は、以下のとおり(分析結果の詳細は省略した)。

1. 年代別

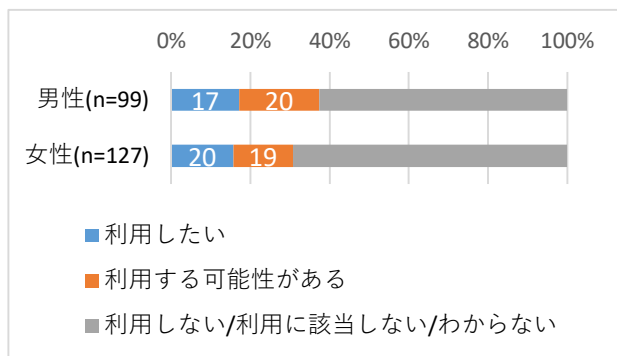


※このほか 50代(n=32)1名、(年代を)回答しない(n=2)1名がそれぞれ「利用したい」と回答

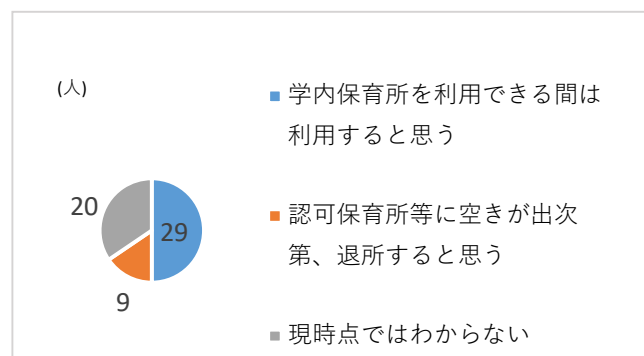
2. 職位別



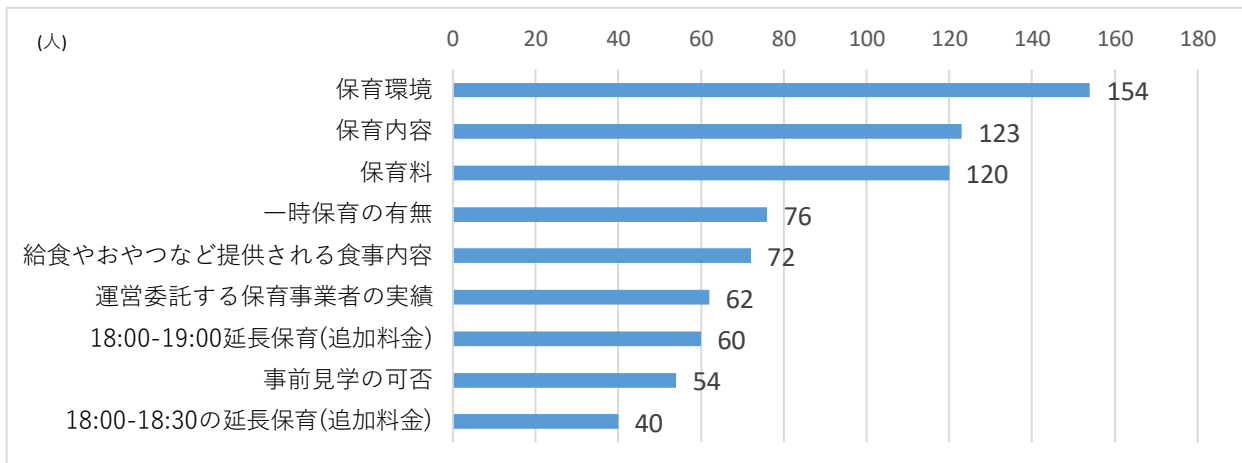
3. 性別



4. 学内保育所の利用予定期間 n=58



5. 学内保育所を利用するかどうか検討する際に重視すること(複数回答) n=226



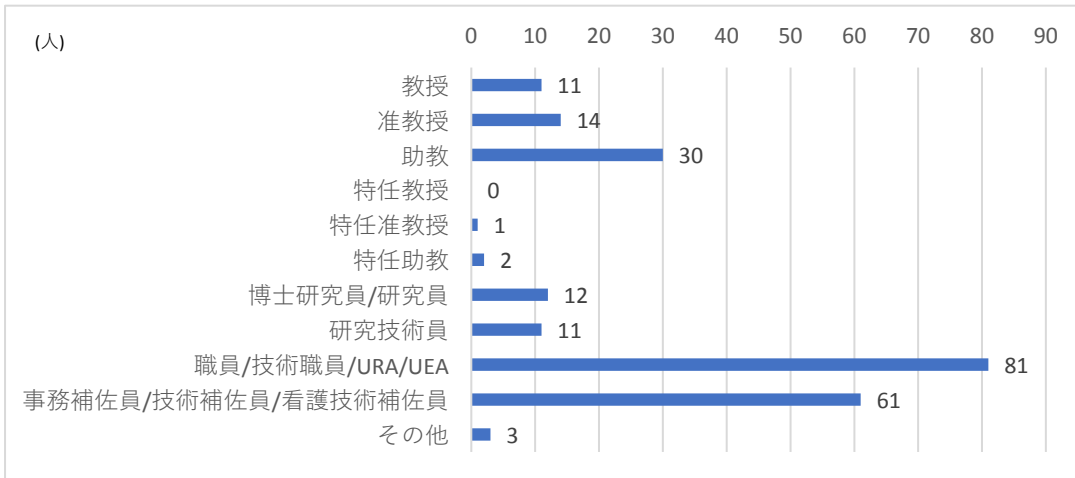
6. その他

学内保育所を利用したい/利用する可能性があると回答した76名のうち、34名が生駒市在住、18名が奈良市在住であった。また、通勤手段は自動車であると回答したのが34名、徒歩が20名であった。

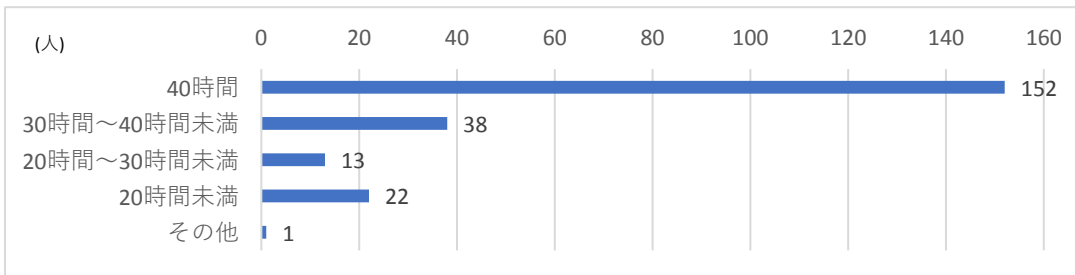
今回の調査の英語フォームに回答した12名のうち9名が利用したい/可能性があると回答したことから、海外出身者のニーズが高いことが推測された。

1. 回答者のプロフィール

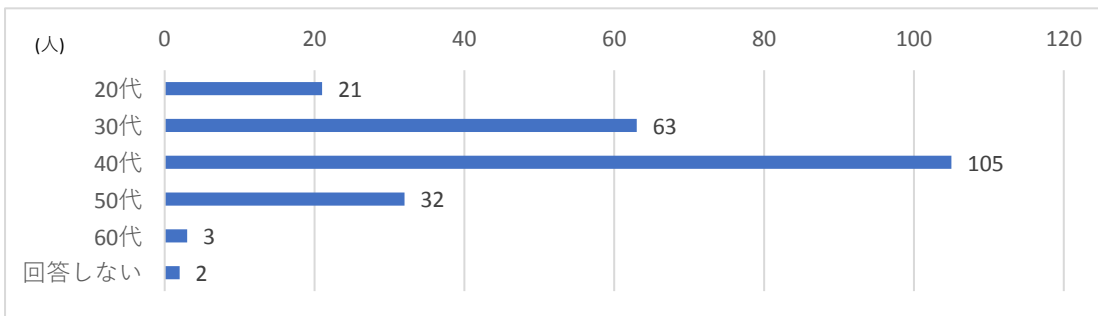
職名 n=226



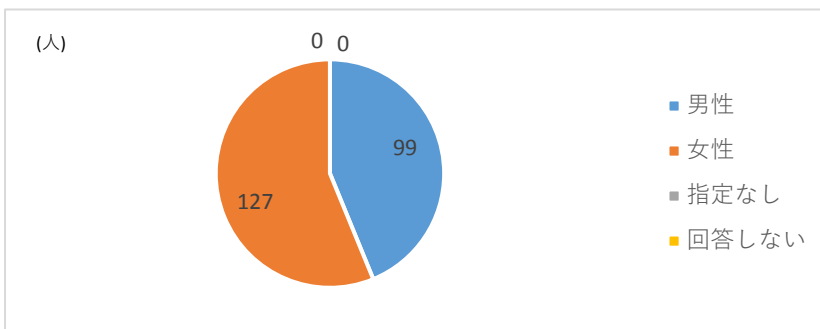
週当たりの勤務時間 n=226



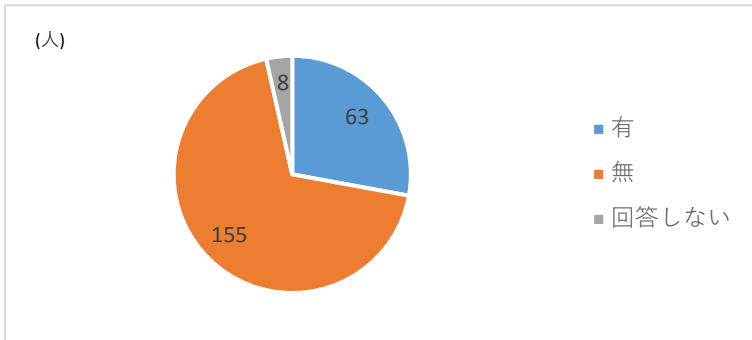
年代 n=226



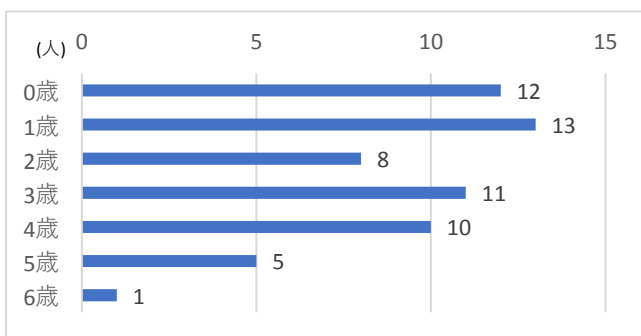
性別 n=226



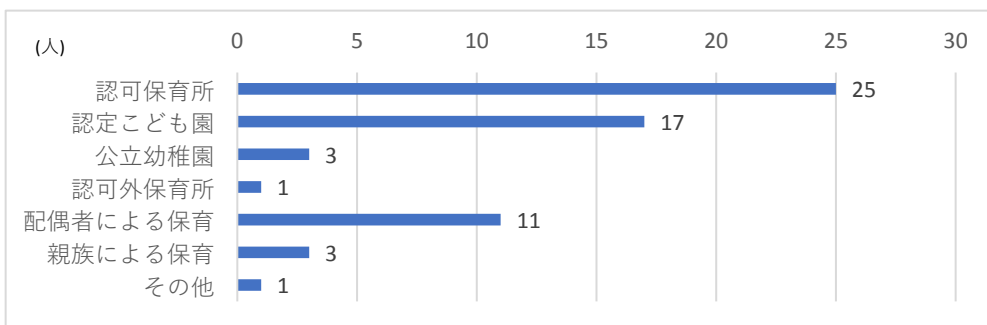
未就学児の有無 n=226



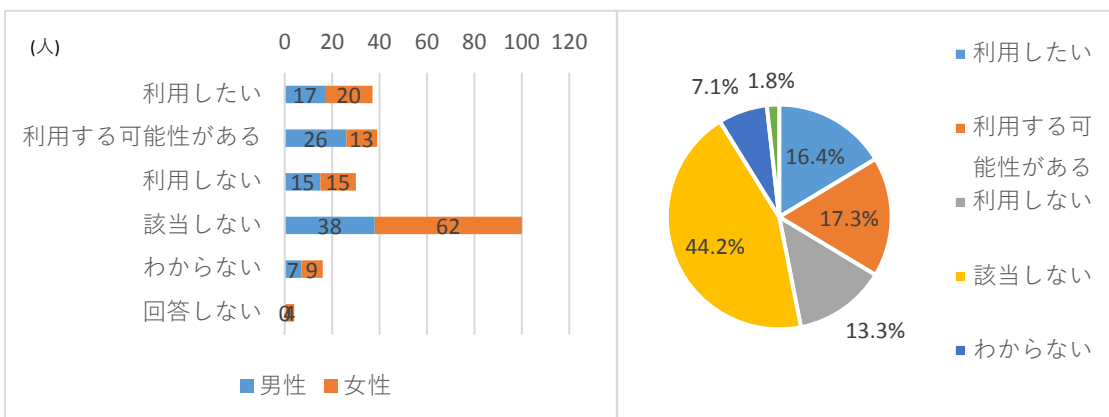
(有の場合)末子年齢 n=60



(有の場合)末子の保育状況 n=61



2. 学内保育所が開所されたら、利用したいですか。 n=226

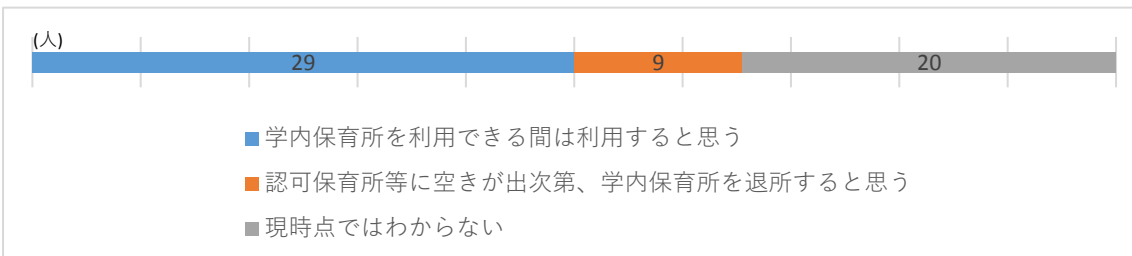


年代および職名に占める「利用したい/利用する可能性がある」と回答した者の割合

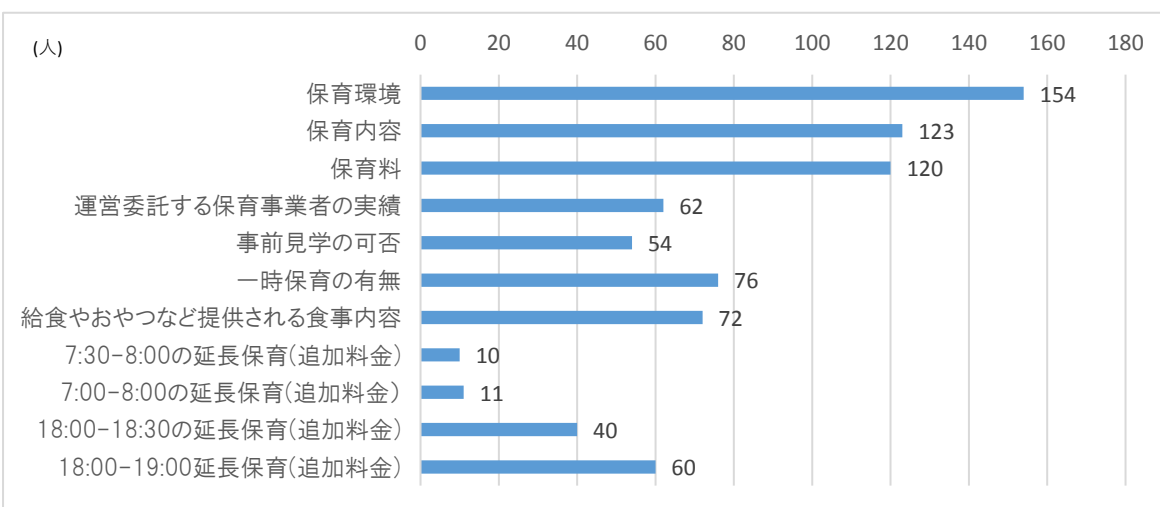
年代	回答者数	利用したい、利用する可能性がある	%
20代	21	18	85.7%
30代	63	34	54.0%
40代	105	22	21.0%
50代	32	1	3.1%
60代	3	0	0.0%
回答しない	2	1	50.0%
	226	76	

職名	回答者数	利用したい、利用する可能性がある	%
教授	11	1	9.1%
准教授	14	5	35.7%
助教	30	17	56.7%
特任准教授	1	0	0.0%
特任助教	2	1	50.0%
博士研究員等	12	8	66.7%
研究技術員	11	6	54.5%
職員等	81	30	37.0%
事務補佐員等	61	7	11.5%
その他	3	1	33.3%
	226	76	

2-2.(利用したい、利用する可能性のある方)認可保育所等を利用できるようになった場合も、学内保育所を利用したいですか。 n=58

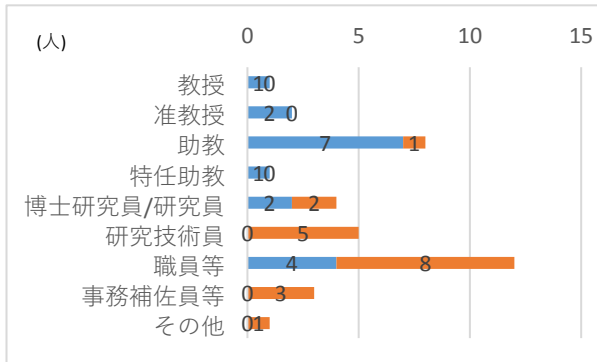


3. 学内保育所を利用するかどうか検討する際に重視すること (複数回答) n=226

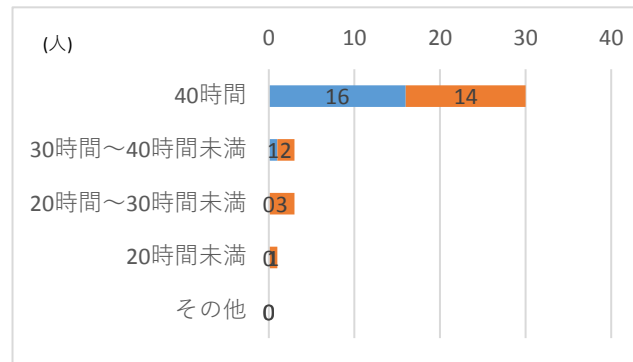


【「利用したい」と回答した37名の集計結果】

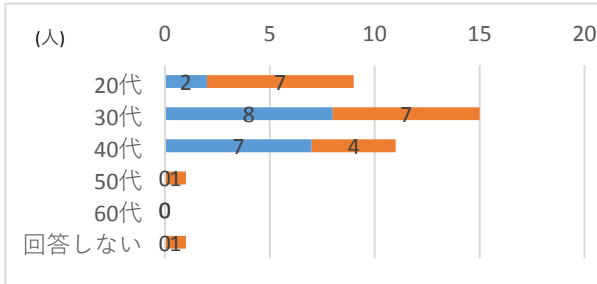
職名 n=37



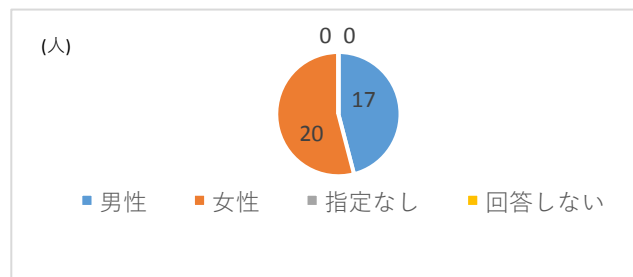
週当たりの勤務時間 n=37



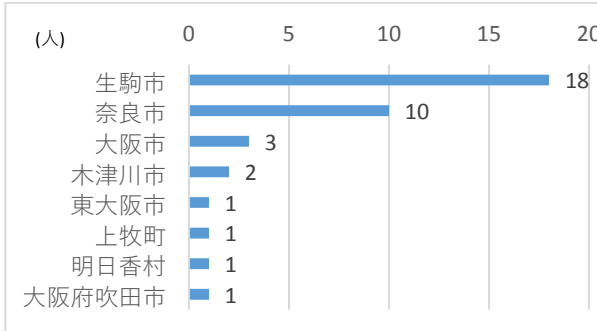
年代 n=37



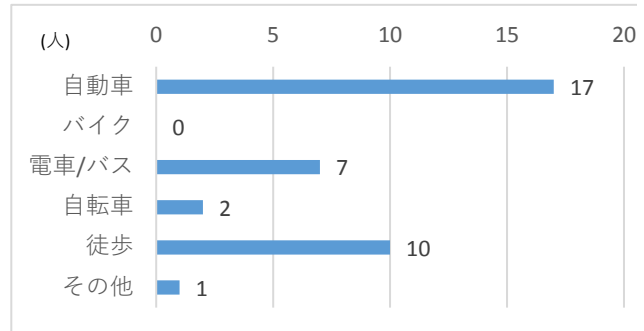
性別 n=37



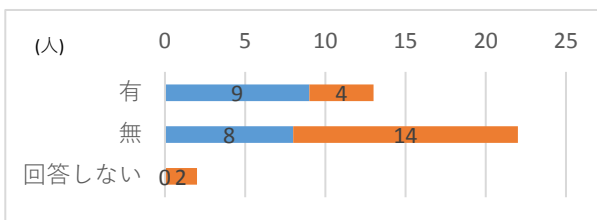
居住地 n=37



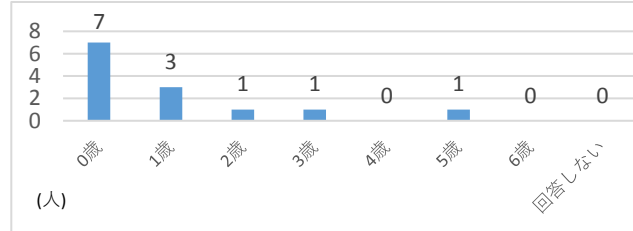
主な通勤手段 n=37



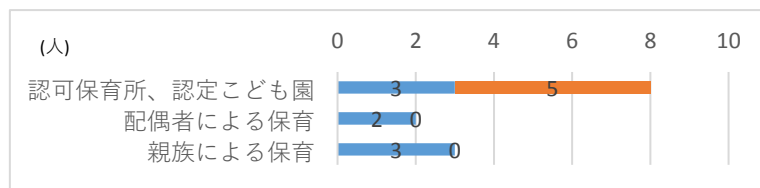
未就学児の有無 n=37



(有の場合)末子年齢 n=13

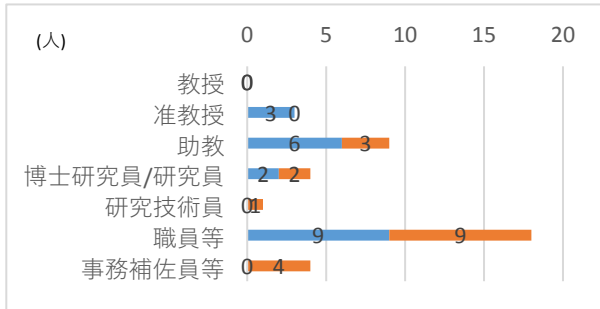


(有の場合)末子の保育状況 n=13

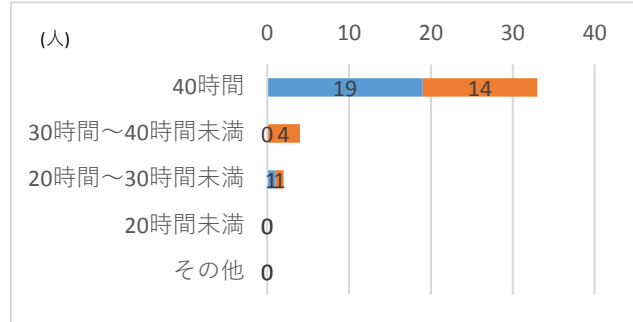


【「利用する可能性がある」と回答した39名の集計結果】

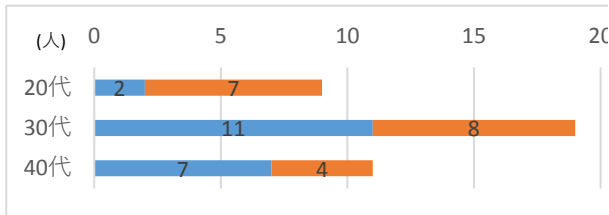
職名 n=39



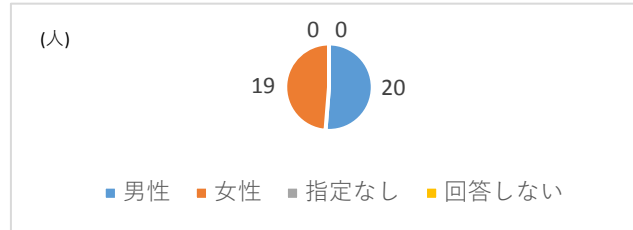
週当たりの勤務時間 n=39



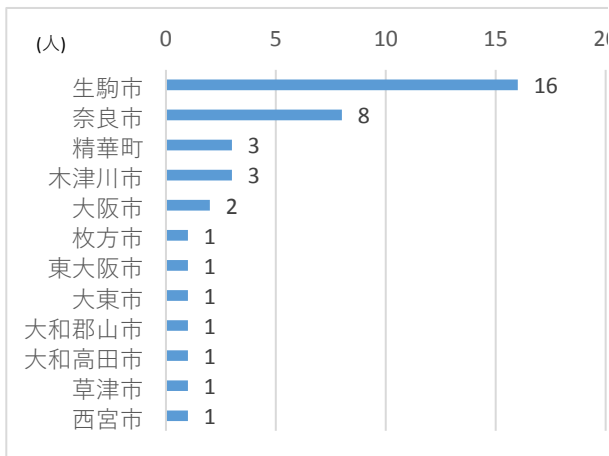
年代 n=39



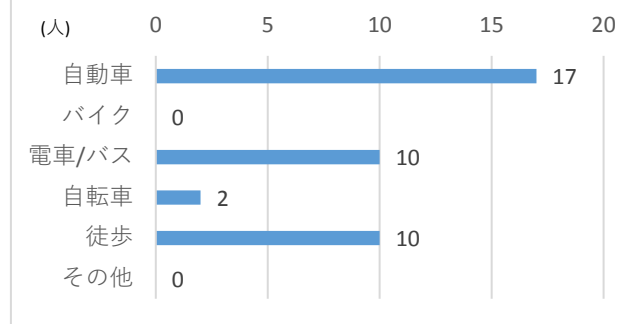
性別 n=39



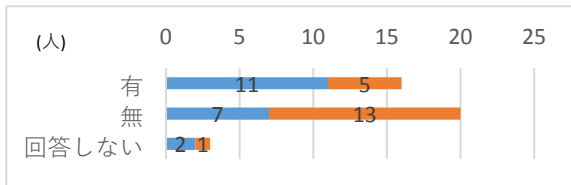
居住地 n=39



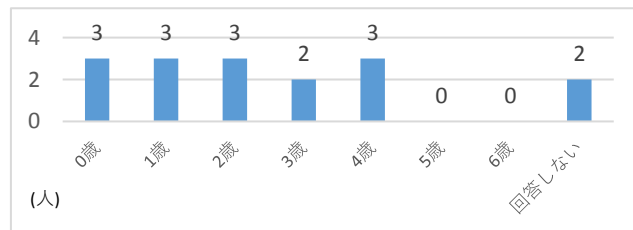
主な通勤手段 n=39



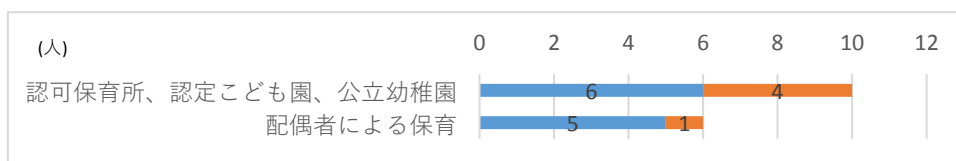
未就学児の有無 n=39



(有の場合)末子年齢 n=16



(有の場合)末子の保育状況 n=16



4. 学内保育所に関するご希望やご意見(自由記述)

- ・2021年1月に出産予定です。学内保育所ができましたら、業務中に休憩をとり、数時間に1回程度授乳にうかがいたいので、設立された暁にはぜひ利用したいです。また冷凍母乳の利用をお許しいただきたいです。(20代女性)
- ・第1子を来年出産予定ですが、4月入園の申込に間に合わないので、出産後も働けるかどうか不安に思っています。今回のご提案は非常にありがたく、学内職員枠があるのであれば入園を優先的に検討したいです。(20代女性)
- ・現在子供はいませんが、職場に保育所があると、仕事と子育ての両立に対する不安が多少軽減されると思います。また、職場の保育所の有無で勤め先を選ぶ人もいらっしゃると思うので、本学のアピールポイントになると思います。(20代女性)
- ・今年10月に保育士試験を受験する予定です。
資格が取得できましたら、この事業に携わりたいと考えておりますが、子どもを預ける側としてではなく、預かる側として職務に携わることはできるのでしょうか。(20代女性)
- ・学内の保育所という点より、他の保育所ではできない、最先端の技術を用いた実験等もできる環境や設備が整っている保育所になれば良いと思う。(30代男性)
- ・設問3は最低限の条件でなければ困るレベルかと思えます。
病児保育所内・園内で提供される習い事(英語、公文式、ダンス、プログラミング、音楽・楽器、リトミックなど)運動場や遊具の有無なども選択肢としてあろうかと思えます。通勤時間、距離以外の具体的な差別化ポイントやサービスを設問に加えてくださると利用するかどうかを選択しやすくなります。(30代男性)
- ・夫婦ともに就学もしくは就労しているケースにも受け入れをしてけると、留学生の研究の助けになるのではないかなと思う。(30代男性)
- ・短期間かつ少ないニーズに対して、どれほどの学内経費を支出するのか、費用対効果をよく検討された方がいいと思う。少人数での保育が、子どもが集団生活を送り、育っていくうえで有益な環境なのかも考えていただきたい。(30代男性)
- ・学内での保育所という点から、他の保育施設ではできない、最先端技術を試すことができ、実験等もできるような環境になると良いと思う。(30代男性)
- ・必要です。学内にあるのと学外にあるのとでは雲泥の差です。1秒でも早く設置をお願いします。迎えに行く時間が惜しいです。(30代男性)

- ・学内保育所があると仕事への復帰が気軽にできそうです。ぜひ設置していただけると嬉しいです。(30代女性)
- ・学内に保育所ができれば、送り迎えがとても楽になると思うので、実現してほしい。(30代女性)
- ・既に該当しませんが一時保育で利用出来たら大変ありがたいと思います。(30代女性)
- ・学外から当学への出張で来られる先生方のお子さんの一時預かりもあれば良いと思います(できれば受け入れ時に書類が多くないことが望ましいです。(30代女性)
- ・看護師さんが常駐して欲しい。病時・病後児保育も受け入れて下さるのか、病後(インフルエンザ等の流行性の病気)の登園許可は小児科医師の診断書が必要なのかどうか、保育中に体調不良の乳幼児がでた場合、隔離して頂けるのか、土曜日の利用もできるのか、セキュリティ対策はどのようになるのか、災害時の対応はどうされるのか、子供に対しての先生の数の確保が十分なのか、認可保育園では、年度区切りでクラスがきまるが、以前通っていた東北大学併設の保育園は、誕生日を迎えると、一つ上のクラスに上がるため、いつでも入ることができたのが良かった。(先生・事務員さん等のスタッフの数もとても充実していたように思います)可能であれば、5歳まで保育して欲しい。(30代女性)
- ・一時保育、病児保育、学童(長期休暇中)についても開所を検討していただけると嬉しいです。大学周辺は待機児童数がそれほど多くないので、認可保育園を使う方が多く、特に短期の保育は需要が高いように思います。産後8週からの受け入れをご検討いただきたいです(生駒市の認可保育園は生後3か月以上。(30代女性)
- ・学内保育所があるのは素晴らしいと思うが、認可保育園のように、園庭があり、大型遊具が屋外にあったり、遠足や散歩、芋ほり体験、生活発表会、季節に沿ったイベント(クリスマス会、誕生日会等)を開催していただけるのだろうか。ただ淡々と屋内で、保育されて食事してお昼寝で終了といった保育なら、子供にとって健全ではないので、利用は控えると思う。(30代女性)
- ・一時保育、預かり保育、(教員の場合には)休日保育のニーズも高いと思います。(40代男性)
- ・平成19年度に本学でも認可外保育所の設置の検討がされたが、国立大学の保育所運営については、事故等に対する管理運営の問題等大学にかなりのリスクがあるということで設置を見送っているので、慎重な検討が必要である。(40代男性)
- ・オフィス街や街中にある認可外保育所は別として、せっかく広い敷地があるので、子供が外で遊べるような園庭があれば、なおよいかと思います。(40代男性)
- ・通常の認可保育園は自治体転入後にしか申し込めないため、奈良先端大での職が決まった人が引っ越し以前からこの保育所に申し込みできるようにしていただけると、奈良先端大に来るときの安心材料になると思います。(40代男性)

- ・非常勤職員なども利用できるよう、できるだけ制限のないようにすれば需要が伸びると思います。(40代男性)
- ・入園希望時に入園できるかどうか不安。3歳で退園後に必ず提携園に入れると明記してほしい(確約されないなら検討外になる可能性が高い)病児保育も重要。(40代男性)
- ・私は職場と居住地は離れているため、利用は難しいですが、設置されたらある一定の需要はあるものと思います。19:00以降の延長保育の需要もあるのではないのでしょうか?(40代男性)
- ・費用は0歳児5万円程度/月とありますが、所得が低い世帯や、学生には負担が大きいですので、収入に応じた保育料負担になると助かると思います。(40代女性)
- ・3歳位までの乳幼児の時に学内に保育所があればどれだけ良かったかな、と思います。3歳頃までしょっちゅう病気がありましたので、病児保育もあるとなお良いと思います。(40代女性)
- ・学内に保育所があれば、助かる方はたくさんおられると思います。生駒市は比較的保育園に預けやすいですが、それでも兄弟で違う保育園になってしまった方や、希望の所に入れなかった方をたくさん知っています。うちは、もう既に子供が大きいのので該当しないですが、一時預かりなどもあればよいと思います。幼稚園に入るまでに、よく利用しました。前向きなご検討、よろしくお願いいたします。(40代女性)
- ・私は現在預ける対象の子供はいませんが、自分が働いている場所で子供を預けられるのは、親御さんにもお子さんにもとても良いだろうと思います。(40代女性)
- ・開所時には4歳になってしまうので、自分の子供を学内の保育所に預けることはできませんが、私自身就職の際に他の企業主導型保育施設に子供を預けることができ大変助かったので、学内にも保育施設があると良いと思います。(40代女性)
- ・設置されれば、若い教員や学生、また新しく着任される教員にとって、安心して研究に集中できる環境を手に入れられるので、とても良いと思います。(40代女性)
- ・子供が大きくなったため、利用に該当しないが、大変良いと思います。本学の住居者が多い奈良市西部は、人口に対して保育所の数が少ないため、人口に対して保育所が多い奈良市東部にすんでいた奈良女子大学の知り合いがうらやましかったです。人材確保の強みになると思います。(40代女性)
- ・通常は居住地の保育園(こども園)に通園させていますが、通園している保育園が警報等で閉園の場合、一時預かりがあると利用しやすいと思います。(40代女性)
- ・キャンパスの敷地が広く、自然もたくさんあり、自動車の通行や池などの危険箇所はあるが、遊びやすい環境はそ

もそもあるので、学内保育所設置にはよい場所だと思います。(40代女性)

・保育園もそうですが、そのあとも子育ては続き、むしろ小学生が一番シンドイです。勉強ができるスペースをはじめ、映画を上映する、など小学生が居れる居場所を作ってもいいように思います。小学生高学年からは学生のアルバイトで面倒を見ることが出来ると思います。(40代女性)

・学内保育所ができることで、教職員が働きやすい環境になることを期待します。学内に設置されれば、通勤時間も短縮されるので、好ましいと思います。(50代男性)

・本学は恵まれた自然環境に囲まれしかも教職員宿舎が学内に設置された教職住混合型の全国でも珍しい素晴らしいキャンパスです。この環境も生かしつつ、ぜひ全国に誇れる愛される学内保育所を作り上げていただけますようお願いしております。(50代男性)

・前職及び前々職には附属病院があったため、保育施設がありました。教員、看護師及び職員のお子さんが対象だったと記憶しています。もちろんニーズにもよりますが、保育施設がありますと女性研究者の確保も可能と思います。さらに、大学あるいは財団敷地内にスーパーがありますと最適でしょうか。親にとりましても子どもにとりましても「安全・安心」な施設を望みます。(50代男性)

・女性の社会参加の為には保育所は必要不可欠なので、是非とも充実させて頂きたいと、切望しています。(50代女性)

・学内保育所は昨今の働き方には必要だと思います。学内に子供を預けられるなら送迎の時間費用等の負担は軽減するかと思います。どんどん活用されることが理想です。(50代女性)

・運営委託する保育事業者によって、質が大きく変わると思います。(毎日5時半以降は、子供全員を一つの部屋に集めてテレビを見せ続けるなど。)ちょっと大変ですが、運営委託する保育事業者選定にあたっては、事業者が運営する既存の保育園を見学したほうが良いと思います。(50代女性)

・現在は保育所を必要としていませんが、経験上、学内保育所は重要だと思います。育児と仕事の両立に苦勞されている若手教職員の環境改善は、現状の問題解決だけでなく、優秀な人材確保にも繋がります、大学の発展のためにも重要な課題であると考えます。(50代女性)

・子どもを保育園に預けて仕事をした経験があります。3歳未満の場合、すぐ近くに安心して預けられる場所が選択肢としてあるのはとてもいいことだと思います。病気になった時の対応がすぐできますし、母乳育児の方は続けながら仕事もできます。ただ、幼稚園以上の年齢になると、ある程度の集団の中で過ごさせたい(小学校に向けての訓練としても)という思いがあり、学内保育所に来ているお子さんの人数が、自分なら気になったかと思います。(50代女性)

5. その他のご希望やご意見(自由記述)

・学内・周辺の豊かな自然環境を生かして、おでかけを頻繁にさせてほしいです。

奈良市内に預ける場合、復帰直後の状況では点数が稼げないので業務復帰時期や保育時間の設定の上でいろいろと制約があり、今は週 40 時間でこなしている業務の一部(特に自身主導で行う研究活動)を削らざるを得ないと考えていました。学内保育が実現できれば、フルタイム復帰や研究活動への主体的参加等、NAIST の研究活動によりコミットできます。学内保育所の設立について、前向きにご検討いただけますと幸いです。(20 代女性)

・保育料は 3-4 万円が望ましいです。(20 代女性)

・若い教員の方々が大学に保育園があることを望まれるのであれば、ぜひ設立してほしいと思います。率直なところ、0 歳児:5 万円程度/月という費用は、高額な印象を受けました。(30 代男性)

・常勤の教職員だけではなく、研究技術員や博士研究員等でも利用できるようにしてほしい。(30 代女性)

・勤務地のすぐ近くに子供を預けられるのは非常にメリットが多いと思います。3 歳までは地域によって入園が困難なところもあることから、学内保育所の必要性が大いにあります。(30 代女性)

・長期休暇中の学童もあれば良いと思います。(30 代女性)

・昨年度は東北大学の保育園に通わせており(0 歳)、仙台市も認可・認可外ともに激戦区で待機児童が多くて入ることができませんでした。大学併設の保育園は保育料も認可と同じ程度という事で、すんなりと預けることができ、とても助かりました。(30 代女性)

・いつも本当にありがとうございます。(30 代女性)

・子供がいないので想像にすぎませんが、保育所を選ぶ際には、自分(妻)だけでなく配偶者(夫)にとってもアクセスしやすい場所かということが大きな検討材料になると思います。自分が病気等でお迎えに行けないこともあるかもしれないので。(30 代女性)

・駅近の事業所ではないので、自動車送迎・自動車通勤の増加が十分に予想されることから、それを見越した施設設計をした方が良いと思います。(40 代男性)

・保育所が増えると選択肢が増えて子どもが増えるきっかけにもなりますし、子どもを通した親同士のコミュニティの発展などキャンパス内の賑わいにもなると思うので、ぜひ設置を頑張ってほしいと思います。(40 代男性)

・自分はすでに子供がこども園に通っていますので利用しませんが、一年の途中で出産した場合、認可保育園に入ることは依然困難です。0歳児が入園できるような保育所の設置を望みます。あと、ハラル食への対応もお願いした

いです。また、子連れのゲストが来た場合に一時的に預かっていただけるとなお嬉しいです(あまり頻繁にはないと思いますが)。(40代女性)

・保育園を必要とする若手研究者にとって、「保育園に空きがないため、子供を預けられない。」状況はキャリア上の死活問題です。子供を預けられなければ、研究が滞り、若手のうちに業績を積み上げられなければ、いつかアカデミアを離れなくてはならなくなります。利用できる保育園の有無が、アカデミアでキャリアアップできるかどうかを決める大きな要因となります。本学で独自に保育園を持ち、保育園さえあれば研究を推進できる優秀な若手をぜひサポートしていただきたい。(40代女性)

・長女は公立の園に子どもを預けていましたが、警報が出るたびに仕事を休んで家で保育しないとイケませんでした。悪天候の中、また仕事が多まるなど思いながら子どもを迎えに行くより、学内の方が安全で、親の精神衛生上も良いも思いますので、警報時の対応の融通が利くと良いと思います。市の方針で、布おむつ、布エプロンを強制する園も洗濯物が大量で、正直しんどかったです。

次女の時に近所の公立の園に入れず入園させた、きたやまと保育園は、保育士さん達が愛情をもって子どもに接してくださり、とても良かったです。親が仕事をしやすいよう何かと融通を効かせてくれて、今までのしんどさは何だったのか、と思いました。(40代女性)

・3歳までとなっているのが、少し気にかかりました。一般的な保育園は6歳までですよ？もし、年齢で入れなかった場合に、兄弟姉妹で別々の保育園になってしまうと、学内保育園は選択肢に入りづらいかと思います。特別な場合の考慮が必要かと思います。(40代女性)

・学童の受入も視野に入れてほしい。(40代女性)

・図書館は一般開放されているものと思いましたが、中学生はダメと言われました。学生よりよっぽど静かに勉強します。秋に開催のオープンキャンパスより、図書室の一部、自習室開放の方がよっぽど地域貢献になると思います。また、中学生に勉強を教える寺子屋的な場所を作ってもいいのではないかと思います。また働く母親の助けになります。関係ない話をすみません。(40代女性)

・危険物倉庫、廃棄物庫、温室などその周辺の管理区域が子供にもわかるように明示するなど、教職員宿舎が設置された教職住混合型ならではのキャンパス整備にてご配慮いただけますようお願いいたします。(50代男性)

・現状は学内勤務者に限られる内容でしょうが、外国人留学生にも、その門戸を広げることを視野に入れる方が良いと思います。(50代男性)

・学内保育所の設置は是非進めていただきたいと思います。近隣企業との共同運営であることや、ポスドクや留学生にもニーズがあることを考えると、10名程度というのは、少なめにも思いますが、まずは始めることが大事だと思います。ニーズに応じて子供の数を増やす余地を残す必要はあると思います。(50代女性)

以上